

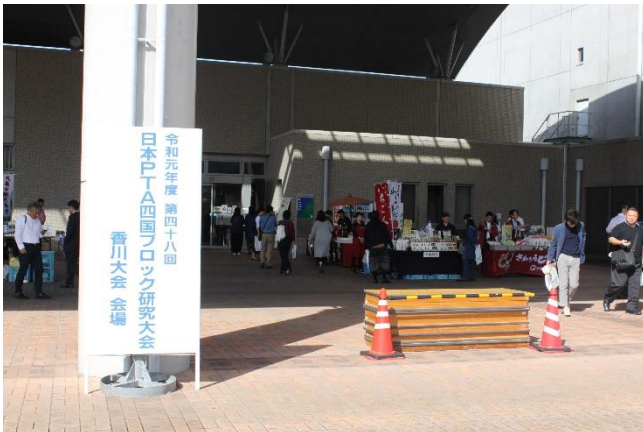
# 附属PTAが「改革モデル」を四国地区のPTAに発信

令和元年度10月13日(日)、丸亀市綾歌総合文化会館(アイレックス)にて、日本PTA四国ブロック研究大会が開催された。その中のパネルディスカッションの場で、附属坂出学園PTAの村上副会長が、香川県のすべての学校を代表し、本学園の改革やPTAの取組を先進的かつモデル的な活動として1000人を超える多くの参会者の前で発表した。

全国でも珍しい幼・小・中学校が1つの組織としてまとまった取組であること。特別支援学校のPTA組織とも連携しながら学校行事に参画していること。コミュニティスクールの一環として保護者が主体となって取り組む「保護者によるキャリア教育」「親子天体観測会」「土曜メンテナンス」「登下校時の見守り」などの特色ある活動を充実させていること。12年間を通して親子の絆、親同士の絆、親と先生との絆づくりに努めていること。などを具体的に発信した。「子どもと親、学校の先生、地域の方々が同じ方向を見ながら成長しようとしている」という最後の言葉が印象的であった。

特に、保護者の方が附属坂出学園の改革について多くの参会者に説明をし、保護者も改革の一員としての原動力になるという力強い意気込みがあり、とても価値あるメッセージであった。

## 1 香川県を代表して附属坂出学園PTAが発表している様子



①四国地区の1000人を超えるPTAの方々が参加



②パネルディスカッションの様子

## 2 参会者(他県のPTAの方)の声

- ・幼・小・中学校が1つのPTA組織として活動していることは大変な面があると思うが、12年間でのPTA活動はとても効果的だと感じた。
- ・附属学校の今の現状を知ることができたとし、PTAが主体となって改革を推進していることは素晴らしい。
- ・PTAが主体となって取り組んでいる活動は、どれもモデル的な活動ばかりで、私たちも今後参考にさせてもらいたい。
- ・PTAがメインとなって活動する取組がとても充実していてすごいと思った。



③附属坂出学園改革やPTA活動について発表



高めよう!子どもを育む親チカラ 今こそ深める親子の“絆”

令和元年度  
第48回  
日本PTA  
四国ブロック  
研究大会  
香川大会 要項

と き：令和元年10月13日(日)

と ころ：丸亀市綾歌総合文化会館  
アイレックス

四国ブロックPTA協議会  
香川県PTA連絡協議会





# 香川に生きる人をつくる 幼小中一貫教育で培う、強い親子の絆

香川大学教育学部附属坂出中学校 松韻会副会長 村上 奈央

## 1. はじめに

本校の属する香川大学教育学部附属坂出学園は、幼稚園・小学校・中学校、および特別支援学校の4校園で構成され、瀬戸大橋のたもとに位置する坂出市にあります。本学園は幼・小・中学校の一貫教育をめざしており、幼稚園または小学校に入学後は中学3年まで最長で12年間在籍することができます。学園として一貫教育の長所を生かした様々な取り組みがなされており、運動会などの行事は4校園合同で行われています。PTA活動も幼・小・中学校合同の「松韻会」と称する組織（PTA会長は共通の1名）で行っており、全国的にも珍しい組織であるため、注目すべきPTAモデルとして紹介されたこともあります。

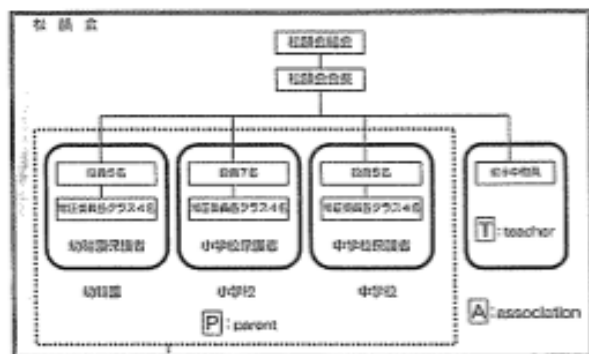


図1.松韻会組織図

松韻会が創設されて今年で54年になります。この間、「附属学園」の使命と教育への理解を深め、それらを推進するため、また子ども達の健全な発達を図るなどの目的のために様々な活動を行ってきました。活動の基本理念として「保護者の絆づくり」を掲げ、年度毎にテーマを決めています。今年度は「ALL松韻会の絆を拡げよう」を活動テーマとして、幼・小・中の絆を超えて全保護者で学園をサポートする体制を確立し、さらに全保護者間の絆を地域に拡げていきたいと考えています。

また、地域に増加しつつある幼小中の一貫教育のモデルとなるべく、今年度から「人が集まる魅力ある学園に変身」を合言葉に学園全体で大きな改革に取り組んでいます。

## 2. なぜ今、改革が必要なのか。

我々PTA活動の第一義は「子ども達の学習環境の充実と安心、安全の確保」です。

本年3月に文部科学省から各都道府県・指定都市に通知された「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」では触れられていませんが、学校における働き方改革には保護者の協力が

不可欠であると考えます。そのためPTA活動が先生方の負担を軽減し、より効果的な方法で高い成果を達成できるよう改革を支援する必要があります。また、子どもを取り巻く現代社会の急速な変化による、子どもの積極性や自己肯定感の低下、やりがい生きがいの希薄化などの課題にも積極的に関わっていく必要があります。

本学園では、次の3つの改革コンセプトを掲げて取り組んでいます。

- (1) 一貫した学び（幼小中の一貫教育による大きな教育効果）
- (2) インクルーシブな学校文化（共生社会に向けた人づくり）
- (3) 地域コミュニティ（附属型コミュニティスクールの構築）

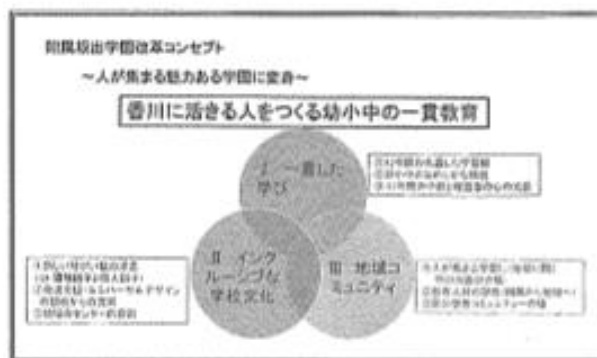


図2.附属板出学園改革コンセプト

### 3. 具体的な実践事例

#### (1) 保護者が講師となって行う「未来を夢見る授業」

一貫教育の強みを生かし、6年前より小学校6年生の子ども達に児童の教育サポートとして保護者によるキャリア教育を実施しています。保護者自身の職業に関する内容だけでなく、社会人としての生き方や仕事に対する情熱を20分ずつ、3人の保護者の方々に熱く語っていただいています。その2年後より中学校での保護者によるキャリア教育が始まりました。現在9名の保護者の方々が1、2年生210名を対象に授業を行っています。子どもたちが今後就く可能性のある職業について自分の友達の父親、母親の話はとても身近なものであり、そこで感じ取ったことの子どもの達への影響はとても大きいものになります。そして、可能性が広がる未来社会と自分を重ね合わせて胸躍らせる大変貴重な機会となっています。

#### さまざまな職種の保護者による授業



警察官による授業



医師による授業



薬剤師による授業

## (2) 学園全体での相互協力活動

本校では、秋の運動会前の土曜日に土曜メンテナンスとして運動場をはじめ、校内の清掃を行っております。2年前より幼稚園、小学校の保護者にも協力をお願いしたところ多くの方々親子で参加してくれるようになりました。また、幼小中合同運動会当日の周辺商業施設への無断駐車対応には、学園の保護者が警備にあたります。さらに、毎朝の登校時は、小中学校保護者が一緒に交通立哨に入り安全確保するなど、学園全体で互いにサポートすることにより活動内容がより充実したものとなり、学園保護者間の一体感の醸成にも寄与していると考えています。



幼小中が協力した運動会前の池の清掃



しあわせを呼ぶオレンジベストを着てノボロール

## (3) P T Aが主体となって実施「親子天体観測会」

昨年には、流星群のピークの時期に合わせて天体観測会を開いています。創立70周年記念事業で修復された、校舎屋上の天体ドームで、巨大望遠鏡による月や惑星の観測も行っています。親子でもっと天体に対する興味関心を持ってもらえたらという目的のもと、対象を中学生だけでなく小学生、特別支援学校生にも拡げ、みんなで夜空を楽しみました。今年は、対象を学園内から地域へ学びの喜びの場を拡げていこうと考えています。



天体ドームを使って



望遠鏡で観測



寝袋持参で流星群の観測

## 4. 最後に

時代が変わり我々とは全く違う常識の中で生きようとする子ども達は、もっと先までを見据えた地点にゴールを設定する必要があると思います。そして、そうした子ども達を持つ我々親たちにこそ、想定を超えた地点までを見通せる想像力が必要になってきているのではないのでしょうか。

そのために、今一度しっかり立ちどまり、持続可能な学校組織の確立に取り組み、変化を柔軟に受け入れていく。親子で同じ方向を見る。それこそが、親子の深い絆づくりにつながると思います。